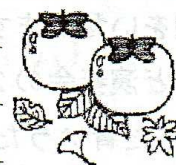


楽 楽


<http://www.asahikonsei.com/>

■練習スケジュール■

月／日		会 場	時 間	備 考
11 月	19 日 (土)	旭丘公民館	19:00～21:00	
	26 日 (土)	〃	〃	
12 月	3 日 (土)	〃	〃	
	10 日 (土)	〃	〃	
	17 日 (土)	〃	〃	
2012 年 1 月	7 日 (土)	新年会 (未定)		
	14 日 (土)	旭丘公民館	19:00～21:00	
	22 日 (日)	〃	〃	
	28 日 (土)	〃	〃	
	2 月 4 日 (土)	〃	〃	
2 月	11 日 (土)	〃	〃	
	18 日 (土)	〃	〃	
	25 日 (土)	〃	〃	



新たな挑戦に向けて

団長 合瀬 弘正

皆様演奏会はお疲れ様でした。評判も良く成功だったと思います。

これも先生方の御指導もさることながら、皆様の熱意が結実したものと思います。今後

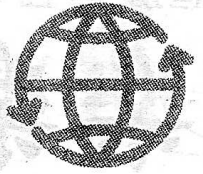
は次ぎに向けての新たなスタートと考えてさらにグレードアップした演奏ができるよう

皆様に頑張りをしましょう。



*** 第8回演奏会を終えて ***

アルト 松本 恵美子



第8回演奏会も あっという間に終わってしまいました。

全体的には大変よかったと思います。思いっきり歌った感があるのではないのでしょうか。ただ、通常練習で不安だったところは、やはり本番でも出ましたね。パートの出の部分とかリズムとか…。自分でもよく間違えるところは案の定“しまった！”と思いましたが、あとの祭りでした。

ソロの部分はどの曲も伸びやかで、聞いていてほれぼれといたしました。ソロを歌われた方々、流石！本当に良かったです。ソロがいいとバックの合唱までレベルが高く聞こえます。ありがとうございます！

私は旭混声の面々にいつも感動させられます。それは皆が一丸となって演奏会を作り上げることです。自分たちの貴重な時間を費やして、それぞれの持ち場を何度も打合せをしながら計画を立て、頭を動かし、あるいは足を運び、その過程では腹の立つこともあったでしょう。でも本番に向け一生懸命遂行してくれた。その熱い想いが演奏会を成功させたのだと思います。打ち上げで皆さんの晴れやかな顔を見たとき、かけがえのない大切な人たちという思いを強く持ちました。

そしてなにより、私たちには神谷先生、石川先生、毛利先生という素晴らしい先生方に恵まれていることに感謝をいたします。

ちょうど演奏会の2日前に、神谷先生が始めて指揮をして下さった第5回の演奏会のCDを聞きました。1st「白いうた青いうた」2st「ミュージックコーラスセレクション」3st「海鳥の詩」を歌った時です。元気一杯でハーモニーというよりも自分が楽しむステージといった感じで、それはそれで好感の持てるステージではありましたが、粗さが目立っていました。

そして第6回演奏会(20周年記念演奏会)1st「白いうた青いうた」2st「木下牧子アカペラセレクション」3st「混声創立20周年記念企画ステージ」4st「岬の墓」や、さらに第7回演奏会1st「アカペラの響き」2st「美ら島のうた」3st「旅のかなたに」とDVDで聞き比べてみると、我々の合唱ががらりと質が変わって、聴かせるハーモニーになっていました。神谷先生によって、我々も着実に力をつけてきていると実感いたしました。あの当時、なかなか歌いこなせなかった歌をもう一度歌ってみたい。今ならもっと響きあうハーモニーを聞かせることが出来るのになあと思ったりしています。

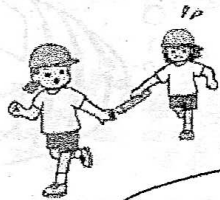
石川先生とはもう22年お世話になっています。“ひとみさん”と気さくに呼ばさしてもらっていますが、ほんとうにありがたいです。合唱団も25年の間には順風満帆の時ばかりではありませんでした。そんな時石川先生は常に大人の目で、的確に、ある時は辛口で、ある時は優しく指標を示してくれました。そして私たちが気持ちよく歌えるのも、伴奏によって歌わせてもらっている部分が大きいと思います。

打ち上げで神谷先生はこれからも指揮をして下さると約束をして下さいました。とても嬉しかったです。先生、これからもよろしくお願い致します。

* 尾張旭市民音楽祭では下記の方々が我が団からのスタッフとしてお手伝いしてくださいました。

ご苦労様でした。

- ・ ベース 橋詰 喬さん
- ・ テナー 加藤雅秀さん
- ・ アルト 水野真弓さん
- ・ ソプラノ 橋詰ひろみさん



～こころをつなぐインタビューリレー～

アルトの大栗尉子さんからのバトンパス、

今回のランナーはベースの松本義明さんです。

《大栗さんからのインタビューです。》

■ご出身はどちらですか？

九州の佐賀県唐津市、今、マスコミを賑わせている玄海原発のある玄海町という片田舎に生まれ

■合唱を始められたきっかけは？

会社に入社後2～3年くらい経った頃、同僚に誘われて覗いた「合唱部」が、生まれて初めての「合唱の世界」。そこでの響きは全く新しい世界でした。

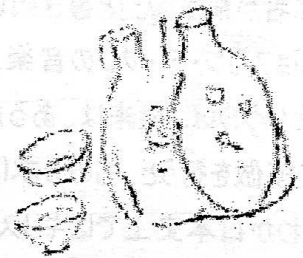
更にショックを受けたのは当時昭和30年代の後半、労働運動や学生運動の盛んな時代に豊田講堂で聴いた「名大男声」。その分厚いハーモニーを聴いたことが、私の従来の音楽観、合唱観をがらりと変えました。「人と人とが声を通じて共感しあう場」としての合唱音楽の人間臭さに強く惹かれました。

■これだけはぜひやってみたいと思っていっぱやることは？

今年3歳と1歳になった孫息子達と「居酒屋」で世間話をしたいなあと
そのとき私は90歳。ボケないでいられるか全く自信はありません。

■とっても素敵なお夫婦！ご円満の秘訣は？

あんまり円満とも素敵な夫婦とも云えませんが、敢えて現在まで
続いている要因は、と言えば「遠慮しない」「自分を正直にさらけ出すこと」と「相手も認めること」位かな。



■合唱への思いを。

「私の反省の言葉」です。折角自分の好きだと思える世界に何十年と身をおきながら、何でもっと身を入れてやってこなかったか。いい加減で、遊び半分に遣ってきた、自分が非常にもったいないことをした、との思いがあります。もう少し身を入れて、立ち向っていればもっと変わった自分もあつたろうと思います。「継続は力」といいます。毎日の少しばかりの努力を10年、20年と続けることで、大きく育つということが今頃になって見えてきました。原因は私のスタンスが演奏者のものではなく、聴衆のスタンスであつた事です。

■合唱をやってこられて、ああよかったな！と思われたことは？

「ああ良かったなあ」という感じとは少し違いますが、私たちの時代は誰もが進学出来る時代ではなく、極々限られた人たちだけが行くことの出来たのが大学でした。特に片田舎で育った人たちは「社会そのものが学校」だったのです。その意味で私にとっては「労音コーラス」という合唱団が多感な青年時代の学びの場であり大学であつたように思います。

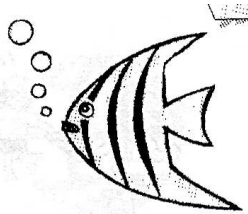
上下関係も利害関係もなく、全く平等・対等な人間関係の中で、貧しい中、希望を語り、恋愛論、人生論を戦わせ、学び合つて来たように思います。会社という上下関係の厳しい競争社会と、それとは対照的な合唱団という二つの集団生活を経験出来た事は、私の人生観のターニングポイントでした。合唱団は「音楽を通じて人間同志の信頼感」を育てる場であり、人生を学び、多くの友人を得た最重要な場所でした。

■永年団を支えてきて下さいました。 団への思いをひとこと。

「旭混声合唱団」には若さに勝る人生経験と、信頼しあい、互いに協力し合う良い関係と、楽しい雰囲気があります。「合唱を通してお互いの心を響き合わせる」大切な場所にして行きたいものです。

《「合唱を通して心を響き合わせる」ほんとうにそうですね！お言葉が心に沁みます♡(*^_^*)》植村

「ジョスカン・デ・プレ(Josquin Des Prez)」



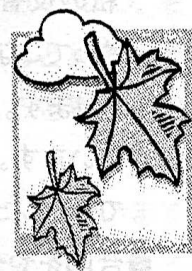
ジョスカン・デ・プレ(1440年～1521年)は、ネーデルランド楽派の泰斗“オケゲム”の弟子で、当時は後年のバッハやベートーベンのように時代の推進力であり尊敬の的であったようです。

ネーデルランド楽派とは、音楽史上1450年～1550年はネーデルランド人の時代と呼ばれ、ネーデルランド地方(オランダ・ベルギー・フランスの一部)出身の音楽家が各地で大活躍し、音楽史上多大の影響を与えたことから輝く存在として認識されています。

1450年から1600年(すなわち15世紀後半から17世紀)は音楽史では、“ルネサンス”と言われています。“ルネサンス”という言葉は“バロック”と同じく美術史から借用したということですが、暗黒と表現された中世に対して人間精神の再生を意味していたようです。かの有名な“レオナルド・ダ・ヴィンチ”(1444年～1510年)、ミケランジェロ(1475年～1564年)とも同時代の空気を感じていたことでしょうし、1517年には“マルティーン・ルター”が宗教改革の口火を切りましたが、当然そうなるべき背景が漲っていたはずです。そして音楽にも精通していた、そのマルティーン・ルターをして「音符は彼(ジョスカン)の望むところに従わなければならないが、他の作曲家達は音符の望むとおりにしなければならない。」即ち<彼は音符の主人である>と言わしめたと言われています。また、フィレンツェの文人“コージモ・バルトリ”という人は「ジョスカンは、建築・絵画・彫刻におけるミケランジェロと同じように音楽においては、並ぶ者が無かった」と書き残しているとのこと。

ジョスカン・デ・プレの音楽上の特徴として「通模倣様式」の確立とされています。通模倣様式(つうもほうようしき)というのは、従来は、ある声部(主としてテノール)に定旋律がおかれていたのを、各声部が同等の価値関係において模倣を行うと、ものの本にありますが今の私達にとっては当たり前すぎて有り難みが湧かないという感じです、しかし、わが日本史上ではキリスト教伝来、三味線伝来と海の彼方から精神文化・芸能の新しい風を感じていた頃の話と思えば、各声部が堂々とそして重厚な響きを醸し出し、やがて譜雑なフーガの発展に繋がったことはスゴイことかなあ...どうでしょう？(T 林)

イベント情報



◆古瀬戸吹奏楽団定期演奏会2011

日時：2011年11月20日(日) 13:30 開演(13:00分 開場)

場所：瀬戸市民文化センター 文化ホール

演奏曲：小組曲、バイエルツァ・カピツァ、NHK大河ドラマ「江」テーマ、他

入場料：無料

◆瀬戸メサイア合唱団第13回「チャリティコンサート

日時：2011年11月23日(水) 13:30 開演(13:00分 開場)

場所：瀬戸市民文化センター 文化ホール

演奏曲：「メサイア」より、「スタジオジブリ」作品集、「ドイツ アラカルト」他

入場料：無料

◎問合せは(T) 合瀬まで。